

平成30年6月5日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K11488

研究課題名(和文)改訂道徳的感受性質問紙日本語版(J-MSQ) 学生版の開発

研究課題名(英文)Development of the Japanese Moral Sensitivity Questionnaire for nursing students

研究代表者

大熊 美世志(OKUMA, Miyoshi)

中部大学・看護実習センター・助教

研究者番号：20736269

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：研究目的は学生に使用可能な道徳的感受性尺度の開発である。看護学生を対象としたFGIを行い質問文の追加と修正をした後に、質問紙調査により得られたデータを用いて探索的因子分析を行った結果、看護師用の改訂道徳的感受性質問紙日本語版と同じ3因子構造を得た。確認的因子分析の結果、十分なモデル適合度を示した。大学生のレジリエンス測定尺度を外的基準とする基準関連妥当性が支持された。信頼性係数(Cronbach's α)について、得られた3因子のうち2因子については十分な信頼性を確保できたが、「道徳的責任感」については十分ではなかった。1年後の追跡調査を行った結果、「道徳的強さ」因子のスコアが有意に高くなった。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a moral sensitivity questionnaire among nursing students. After conducting focus group interviews among nursing students and adding/revising questions, we performed exploratory factor analyses using the data obtained from the questionnaire survey. Data analyses revealed a three-factor structure similar to that of moral sensitivity questionnaires for nurses (Japanese version). Confirmatory factor analysis indicated sufficient model fitness. Supporting the validity of the reference related to students' Resilience Measurement Scale as an external criterion was supported. The coefficient Cronbach's α was found sufficiently reliable for two of the three factors but was insufficient for the factor "moral responsibility." A follow-up survey conducted 1 year after this survey found that the score of the factor "moral strength" had increased significantly.

研究分野：看護学

キーワード：看護学生 道徳的感受性 尺度開発

1. 研究開始当初の背景

2003年に日本看護協会から出された看護者の倫理綱領の中で、専門職としての知識・技術だけでなく、高い倫理性を身につけるために自らの行動を律するための規律が謳われている。また、2007年4月に厚生労働省より出された「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」、2008年の「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」には看護基礎教育での知識や技術の習得に加えて、倫理観や責任感、豊かな人間性および人権を尊重する意識の育成が重要課題とされている。

サラ T. フライ (2005) は、専門職としての質の高い看護を実践するには、倫理的決断を行う能力が不可欠であり、倫理的決断に至るまでの過程に看護師自身の倫理的知識、価値観や人生経験、認知能力、道徳的感受性、理論的能力、道徳的直観を用いることを述べ、道徳的感受性の必要性について示している。さらに、看護師にとって重要なのは倫理的側面を見出す能力、と述べ、その理由として、看護実践の中で倫理的側面を見出すことがなければ、倫理的課題解決に取り組む以前に倫理的課題の顕在化ができないからであることを示している (坂上, 2009)。

このように、倫理的な実践には倫理的な意思決定が不可欠であり、その過程において理論的知識だけでなく、患者の脆弱性を理解し、患者に寄り添い、その状況における文脈的な理解から道徳的な問題を識別する道徳的感受性を必要とする。

Lützné ら (2006) によれば、道徳的感受性は、道徳的な気づき (Sense of Moral Burden=SMB)、道徳的強さ (Moral Strength=MS)、道徳的責任感 (Moral Responsibility=MR) で構成されている。

道徳的な気づきは、道徳的価値を含む問題や状況により惹起される道徳的負担に対する感覚であり、道徳的強さは、看護者自身を守るためではなく、患者の立場から看護行為を正当化できる勇気や物事に立ち向かう能力である。また、道徳的責任感は、一義的には規則や制度に従って働くための道徳的義務およびその目的を見抜く力、さらには個々の患者の視点から何が道徳的問題なのかを知る能力である。

看護基礎教育においては、倫理的な実践に向けて倫理的な意思決定ができるように、道徳的感受性の涵養と道徳的理由付けに必要な技術を学生が発展できることが最大の目的である。学生が倫理的な問題の存在を見過ごすことなく気づき、顕在化し、倫理的な意思決定および看護実践ができるようになるためには、道徳的感受性を向上する取り組み、教育が不可欠であり、道徳的感受性が身についているか否かを評価しながら個々の学生に応じた指導が必要となる。そのためには、道徳的感受性が身についているか否かを客観的に測定する手段、尺度が必要であると考えられる。これまで申請者らも、Lützné ら (2006)

の開発し revised Moral Sensitivity Questionnaire (r MSQ) および前田ら (2012) の開発した改訂道徳的感受性質問紙日本語版 (J-MSQ) をもとにして学生にも使用可能な9項目からなる J-MSQ の学生版試案を作成することを目的として研究を進めてきたが (滝沢, 2014)、信頼性、妥当性のあるものとして完成には至っていない。そこで、さらなる改良を加え、信頼性、妥当性のある尺度へと完成させることを目的として研究を進めたいと考える。

2. 研究の目的

本研究は、臨床経験の少ない看護学生の道徳的感受性を測定する尺度の開発、およびその信頼性、妥当性を検討することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) これまでにまとめた J-MSQ 学生版試案で明らかになった修正点を改良する (J-MSQ 学生版試案 ver.2 の作成)。

(2) 看護学生を対象として、J-MSQ 学生版試案 ver.2 の内容 (表面) 妥当性についてフォーカスグループインタビューを実施し、修正点について改良する (J-MSQ 学生版試案 ver.3 の作成)。

(3) 看護学生を対象として、J-MSQ 学生版試案 ver.3 を用いて質問紙調査を実施し因子分析による因子構造の整合性の検証を行う (J-MSQ 学生版の作成)。

(4) 看護学生を対象に J-MSQ 学生版 を用いて1年間の追跡調査を実施し、道徳的感受性の発達についての変化の検証を行う。

4. 研究成果

(1) 質問紙の準備

本研究は、2014年に開発した J-MSQ の学生版試案の質問文について、質問文で尋ねている意味内容を保ちながら、看護学生がより明確に理解できるような表現やキーワードを変えてパリエーションを加えた質問文を4つ追加して合計13項目の J-MSQ 学生版試案 ver.2 として準備した。この質問紙が、学生にとって理解できるものであるか内容 (表面) 妥当性の確認のために1校の看護専門学校に在籍する2年生6名、および3年生7名を対象として、約60分のフォーカスグループインタビューを実施し、その結果に基づく修正を行い、J-MSQ 学生版試案 ver.3 を準備した。

これを用いて看護大学3校の1~4年生、および3年課程の看護専門学校4校に在籍する看護学生1~3年生の合計1,073名を対象として、自記式質問紙調査を行った。その結果、「Moral Responsibility」は1つの独立した因子として抽出することができた。しかし、今度は「Moral Strength」と「Sense of Moral Burden」が区別されない1つの因子となったため、Lützné ら、および前田らと同じ3

つの因子を抽出することができなかった。そこで、「Moral Strength」と「Sense of Moral Burden」をそれぞれ独立した2つの因子として抽出できることを目指して、これらを構成する7つの質問文のそれぞれについて、J-J-MSQ 学生版試案 ver.2 の作成と同様の手法を用いて、表現やキーワードを変えてバリエーションを加えた1つの質問文から3つの質問文を追加して合計24項目のJ-MSQ 学生版試案 ver.4 を準備した。これを用いて1校の3年課程の看護専門学校に在籍する2年生、および3年生各7名(計14名)を対象としたフォーカスグループインタビューを行い、その結果に基づく修正を行い、J-MSQ 学生版試案 ver.5 を準備した。

(2) 自記式質問紙調査 >

前述の手続で準備したJ-MSQ 学生版試案 ver.5 (24項目)を用いて自記式質問紙調査を行った。

対象は、看護大学8校の1~4年生、および3年課程の看護専門学校17校に在籍する看護学生1~3年生を対象(編入生を除く)とした。調査協力を依頼した合計25校のうち、調査協力の得られた大学3校と専門学校8校に在籍する看護学生合計1,995名とした。

調査内容は、属性として学校の種別、学年、経験した臨地実習、倫理的/道徳的な問題への遭遇体験、24項目のJ-MSQ 学生版試案 ver.5、基準関連妥当性の検討のための森らの大学生のレジリエンス測定尺度(36項目)とした。

調査期間は、2016年11月~12月であった。統計学的分析には、IBM SPSS Statistics Ver.24.0 for Windows、およびIBM SPSS Amos Ver.24.0を用いた。まずは、データの正規性の確認、およびItem-Total相関などの項目分析を行った。次に、信頼性の検討のために、探索的因子分析により抽出された尺度全体、および各因子の信頼性係数Cronbach's α 係数を算出した。妥当性の検討のために、探索的因子分析による因子構造がLütznら、および前田らの因子構造と一致しているかの確認、森らの大学生のレジリエンス測定尺度(森ら,2002)を外的基準とした「Moral Strength」因子との相関の確認、および確証的因子分析によるモデル適合度の確認を行った。

(3) 対象者の概要

看護学生480名(白紙回答の7名を含む)から回答を得た(回収率24.1%、有効回答率98.5%)。480名の内訳の詳細は、看護大学生181名(37.7%)、看護専門学校生292名(60.8%)、無記名7名(1.5%)であった。学年について、1年生が101名(21.0%)、2年生は139名(29.0%)、3年生は174名(36.3%)、4年生が59名(12.3%)であった。

(4) 項目分析

項目分析により天井効果とフロア効果の確認、および正規性の確認を行った。次に、Item-Total相関分析では24項目の各項目のスコアと全スコアの合計点との間でPearsonの積率相関係数を算出した。この結果、天井効果を示したものは1項目、正規性に問題のあったものは3項目であった。また、I-T相関の結果、Ferketich17に基づく相関係数 r 0.3を示さなかったものは3項目であった。ただし、本来であればこれら7項目すべてを分析対象から除外すべきであるが、このうちI-T相関に問題のあった3項目のうち2項目は「Moral Responsibility」を構成する重要な項目であるため実際は除外せず、5項目を分析対象から除外して合計19項目について探索的因子分析を行った。

(5) 妥当性の検討

探索的因子分析

探索的因子分析は、最尤法(プロマックス回転)により行い、固有値1以上を基準とした。また、因子負荷量が0.40以上、かつ2重負荷のない項目を採用した。質問項目の中には、看護師用のJ-MSQを構成する9つの質問文に対して看護学生がより明確に理解できるように表現やキーワードを変えてバリエーションを加えた質問内容が類似する複数の質問項目が含まれているため、これらについては因子負荷量の大きさ、および信頼性係数(Cronbach's α)への影響を確認して順次質問項目を削除した。その結果、最終的に、「Moral Strength」:4項目、「Sense of Moral Burden」:5項目、「Moral Responsibility」:2項目から成る11項目3因子が抽出された。これは、前田らのJ-MSQ、およびLütznらのr-MSQと同じ3因子構造となった。

なお、Kaiser-Meyer-Olkin(KMO)の標本妥当性基準においては、KMO値は0.72であり、標本の妥当性は望ましい水準であることが確認された。また、Bartlettの球面性検定においては、 $p=0.000$ であり、標本が因子分析に十分に適していることが確認された。

外的基準との相関

本研究における「Moral Strength」の外的基準として、森らによって開発された大学生のレジリエンス尺度を使用した。この尺度ではレジリエンスの概念を「逆境に耐え、試練を克服し、感情的・認知的・社会的に健康な精神活動を維持するのに不可欠な心理特性」、および「強くたくましく生きる力」としており、本研究における「Moral Strength」の「道徳的な負担感・重荷に押しつぶされない忍耐力と回復力」の概念と一部が共通している。そのため、森らの大学生のレジリエンス測定尺度の合計点と「Moral Strength」の合計点についてPearsonの積率相関係数を算出し、基準関連妥当性を確認した。その結果、相関

係数は、 $r = 0.46$ ($p < 0.01$) であった。
3. 確証的因子分析によるモデル適合度
確証的因子分析によるモデル適合度の検討
を行った。その結果、適合度指標 $IFI = 0.91$ 、
 $CFI = 0.91$ 、 $RMSEA = 0.08$ であった。

信頼性の検討

因子分析結果による 11 項目の尺度全体の信頼性係数 (Cronbach's α) は、 $\alpha = 0.62$ であり、それぞれの因子の信頼性係数 (Cronbach's α) については「Sense of Moral Burden」 $\alpha = 0.75$ 、「Moral Strength」 $\alpha = 0.76$ 、「Moral Responsibility」 $\alpha = 0.44$ であった。

(6) 追跡調査の結果

看護学生を対象に J-MSQ 学生版 を用いて 8 校の看護専門学校 1 年生 76 名と 2 年生 99 名 (1 回目の調査) と、1 回目の調査から 1 年後に 8 校中の 1 校の専門学校生 2 年生 39 名、3 年生 39 名の看護学生を対象に追跡調査を行い、道徳的感受性の発達についての変化の検証を行った。その結果、1 年生の 1 年後には道徳的感受性を構成する 3 つの因子うちのどの因子にも変化は示されなかった。一方で 2 年生の 1 年後には、「Moral Strength」を構成する質問項目 2 項目についてスコアが有意に高くなった。

(7) 結語

本研究により、Lütznén ら、および前田らが示した 3 因子の看護師の道徳的感受性と同一因子構造を示す学生版の道徳的感受性測定尺度を開発することができた。3 つの因子の内に「Moral Responsibility」については、示される信頼性係数が低く、今後更なる改良が必要である。

< 引用文献 >

厚生労働省．看護基礎教育の充実に関する検討会報告書 [インターネット]. 2007. [検索日 2017 年 8 月 18 日] <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>

厚生労働省．看護教育の内容と方法に関する検討会報告書 [インターネット]. 2008. [検索日 2017 年 8 月 18 日] <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/...att/2r9852000001314m.pdf>

サラ T. フライ, メガン・ジェーン・ジョンストン / 片田範子, 山本あい子訳. 看護実践の倫理【第 2 版】倫理的意思決定のためのガイド, 73, 日本看護協会出版会, 2005.

坂上百重, 内山美枝子, 瀬倉幸子. 看護学生の「倫理観」育成の初段階における学習効果 平成 20 年度入学の 1 年次生調査から, 新潟大学医学部保健学科紀要, 9 (2), 3-11, 2009.

前田樹海, 小西恵美子. 改訂道徳的感受性質問紙日本語版 (J-MSQ) の開発と検証: 第 1 報, 日本看護倫理学会誌 4, 1, 32-37, 2012.

Lütznén K, Dahlqvist V, Eriksson S, Norberg A. Developing the Concept of Moral Sensitivity in Health Care Practice. Nursing Ethics. 2006; 13(2): 187-196.

滝沢美世志, 太田勝正. 改訂道徳的感受性質問紙日本語版 (J-MSQ) の学生版第 1 版の開発. 日本看護倫理学会誌. 2015; 7, (1): 4-10.

森敏昭, 清水益治, 石田潤他. 大学生の自己教育力とレジリエンスの関係. 学校教育実践学研究. 2002; 8: 179-187.

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 3 件)

滝沢美世志, 太田勝正, 前田樹海 改訂道徳的感受性質問紙日本語版 (J-MSQ) 学生版第 2 版の開発 中間報告 日本看護倫理学会 2017 年

Takizawa Miyoshi, Ota Katsumasa, Maeda Jukai. Development of a Moral Sensitivity Questionnaire for Nursing Students (MSQ-ST) The 20th the East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2017 年

Takizawa Miyoshi, Ota Katsumasa, Maeda Jukai. A Second Revision of the Japanese Version of the Revised Moral Sensitivity Questionnaire for Use with Nursing Students: Surface Validity Testing Using a Focus Group Interview. The 19th the East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2016 年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大熊 (滝沢) 美世志

(OKUMA (TAKIZAWA), Miyoshi)

中部大学・看護実習センター・助教

研究者番号: 20736269

(2) 研究分担者

太田 勝正 (OTA, Katsumasa)

名古屋大学・医学 (系) 研究科 (研究院)・教授

研究者番号: 60194156

前田 樹海 (MAEDA, Jukai)

東京有明医療大学・看護学部・教授

研究者番号: 80291574